

a 学校教育目標		自ら学ぶ、心豊かな生徒の育成		b 経営理念 ミッション・ビジョン		[ミッション](本校の使命) ① 社会のために役立つ志を持つ生徒の育成 ② 地域・保護者の期待に応える学校 [ビジョン](本校の将来像) ③ 伝統や文化の継承を軸に成長する学校								
評価計画				自己評価				改善策		学校関係者評価				
c 中期経営目標	d 短期経営目標	e 目標達成のための方策	f 評価項目・指標	g 目標値	9 月	月	i 達成度	j 評価	k 結果と課題の分析	n 改善策	l 評価			m コメント
					達成値	達成値					イ	ロ	ハ	
確かな学力	基礎学力の定着	・家庭学習の習慣化や支援が必要な生徒への補充学習を行うことで、基礎学力の定着を図る。	・定期テストの知識・技能の観点において、50%以上正答する生徒の割合(R5:70.9%)	75%	72.9%		97.2%	B	・1学期定期テストの知識・技能の観点において50%以上正答している生徒の割合が、2、3年生は77%であったが、1年生は64%であった。 ・2、3年生は目標を上回ったが、1年生は目標を下回った。 ・昨年度より高い数値である。	・授業内容に応じたモジュール学習、宿題での家庭学習の習慣化など、授業の復習を繰り返し行えるような環境を整える。 ・課題の大きい生徒については個別指導など指導を工夫する。	○			・授業の中で、生徒自身が考え、仲間と協働して課題を解決する取組が進められているところが良いと思えます。授業研究や準備は大変だと思いますが、全教職員で粘り強く取り組み、子どもたちの変化をしっかりと教職員間で交流し合ってもらえたらと思います。 ・R80が興味深かったです。 ・幸崎思考力の取組の結果が確実に表れています。 ・テストの正答率50%以上の生徒の割合は、70%以上を目指してほしい。
	幸崎思考力を育み、自律的に学ぶ生徒を育成する。	・シンキングツールの活用や協働的な学習、個別最適な学びに向けた授業改善を図る。	・定期テストの思考・判断・表現の観点において、50%以上正答する生徒の割合(R5:52.1%)	55%	64.5%		117.0%	A	・1学期定期テストの思考・判断の観点において、50%以上正答している生徒の割合が、1年生は57%、2年生は72%、3年生は64%であった。 ・どの学年も目標を上回った。 ・昨年度より高い数値である。	・昨年度より取り組んでいるシンキング・ツールの活用成果が出ているので、引き続き取り組む。 ・さらなる思考力表現力の育成のために、個別最適な学びに向けての授業改善を図り、生徒自身が考え、課題を解決できる授業をまずは教員が研究授業から取り組めるよう支援する。	○			・生徒数が少ないが、一人ひとりに目が届きやすくなると思うので、しっかり教育してほしい。
	幸崎思考力の向上	・ICTの効果的な活用と、R80を活用した振り返りを行う。	・「授業の終わりに、目標に対応したまとめや振り返りをR80で行っている」に対して、肯定的評価の割合(新規)	90%	73.1%		81.2%	B	・教職員アンケートにおいての割合が75%であり、生徒アンケートにおいての割合が73.1%である。 ・教職員アンケート結果と生徒アンケート結果の割合がほぼ同じである。	・R80について、教員の理解不足があり、充分活用できていないと考えられるので、教員の研修を行い、スキルアップに取り組む。	○			
豊かな心・健やかな体	自己肯定感の向上	・自己の役割を認識し、繰り返し成功体験を積める授業や行事等を行う。	・Q-Uアンケートにおいて、一次支援の生徒の割合(R5:57.5%)	60%	67%		112.7%	A	・授業の進め方を教師主導ではなく、生徒が主体的に学習できるような単元を増やした。生徒が自ら計画した学習方法で進め、課題を解決することで、挑戦心と自己有用感を育てることができる。	・二次支援の生徒を一次支援に、三次支援の生徒を二次支援に引き上げられるよう、授業や行事において成功体験が積める仕組みをつくる。	○			・授業でも行事でも生徒が主体的に活動し、達成感や仲間意識を高める取組がされている成果を、今日の全校合唱に対する生徒の態度からも見る事ができました。みつわ祭が楽しかったです。 ・日々の取組があり、子どもたちが落ち着いて学習できていると感じます。 ・成功体験がくりかえし、より高い目標に挑戦する働きかけがされていると思います。 ・自分で決めて勉強するのは良いが、慣れないように進んでほしい。
	自他を大切にし、ともに成長しようとする生徒を育成する。	・自治的な活動を通して、互いに成長しようとする集団の育成	・お互いを認め合い、高め合う集団づくりを行い、リーダーの育成と自治的集団の質の向上を目指す。	60%	95.4%		159.0%	A	・運動会では、リーダーに運動会を成功させるためには何を大切にすることを考えさせ、他の生徒へ呼びかけさせた。生徒が主体となって行事を作り上げる仕組みをつくった。 ・獅子太鼓や群読、合唱の練習において、教員が生徒に指示するのではなく、それぞれのリーダーに指示をさせるようにしている。	・みつわ祭を成功させるために何を大切にすることを考えさせ、実行委員に考えさせ、他の生徒に呼びかける取り組みを行う。	○			・運動能力が向上してきたのはよかった。 ・団体競技などいろいろなスポーツを授業の中に取り入れてやってみてはどうでしょうか。
	健康の増進と体力の向上	・基礎トレーニングを充実し、体力・運動能力の向上を図る。	持久力・柔軟性について、前回の記録を上回る生徒の割合	50%	67%		134.4%	A	・柔軟性において、60%の生徒が前回の記録を上回っている。 ・持久力について、74%の生徒が前回の記録を上回っている。	・柔軟性について、怪我の予防やパフォーマンスの向上につながるなど、必要性を伝えていく。 ・持久力について、生涯にわたる健康維持のため、今のうちから付けておく必要があることを伝えていく。	○			
信頼される学校	自校に誇りを持ち、地域に信頼される学校づくりの推進を図る。	郷土愛の醸成	・地域や社会と関わりを持ち、自治活動を推進する。	75%	86.9%		115.0%	A	・「郷土芸能の時間は、意欲を持って積極的に取り組んでいる」に対して、93.5%の生徒が肯定的評価をしている。郷土芸能班として、日ごろから地域や社会とつながりを持ち、自ら自治活動を推進していく力になっていく意欲と、実際に力になっている有用感を持たせる活動を今後行っていく。	・「郷土芸能の時間は、意欲を持って積極的に取り組んでいる」に対して、93.5%の生徒が肯定的評価をしている。郷土芸能班として、日ごろから地域や社会とつながりを持ち、自ら自治活動を推進していく力になっていく意欲と、実際に力になっている有用感を持たせる活動を今後行っていく。	○			・伝統的な獅子太鼓を、地域とのつながりや地域芸能の発信として大切にされ続けていることがありたいです。子どもたちの成長を地域でも見守っている責任をあらためて感じました。 ・時間外勤務が少ないに越したことはないのですが、時間外勤務がしにくい状況が逆に先方を追い詰めることがないようにしてあげてほしい。 ・みつわ祭の獅子太鼓が郷土芸能の伝承につながっていくのは素晴らしい。
	充実感・達成感に満ちた教育活動と教職員の働き方改革の推進	・行事や活動を見直し、業務改善に取り組む。 ・定時退校日と月別時間外在校時間の縮減(45時間以内)を徹底する。	・時間外勤務45時間以内の職員の割合(R5:93.8%)	95%	82%		86.3%	B	・5月の45時間以内の割合が、58.7%と下がったが、その後は増加している。水曜日を基本的に定時退校日としているが、もし水曜日に帰れない場合は、その週の別日に設定するようにしている。 ・退校時間を決めず、時間外勤務している実態があるので、下半期は、管理職も含め、時間外勤務45時間以内100%を目指す。	・衛生委員会・学校経営会議等で、各月の時間外勤務の実態を共有しながら、退校時間の意識を高める。行事の準備は計画的に行い、分担を分散し、仕事が偏らないようにする。	○			

[j]:自己評価 評価]

A:100≦(目標達成) B:80≦(ほぼ達成)<100

C:60≦(もう少し)<80 D:(できていない)<60

[l]:学校関係者評価 評価]

イ:自己評価は適正である。ロ:自己評価は適正でない。

ハ:分からない。